

令和2年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated]をご覧ください。

実施日：令和2年11月25日（水）
回収日：令和2年12月3日（木）
対象：生徒（回答数576名 回答率72.0%）、保護者（回答数655名 回答率81.9%）、教職員（56名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール
80%以上
60~79%
40~59%
40%未満
10%以上
0~9%
0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 13 rows of data, each with sub-rows for 生徒, 保護者, and 教職員, showing percentages and trends for various school activities and facilities.

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大體出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒	72% ➡ 1%	生徒や保護者の肯定的な回答は前年度を上回っており、割合もやや高いと言える。しかし教職員との認識差は30%近くあり、週末課題の取り組みは良いものの学力の定着につながらないことを理由としている。	各教科で実施している学習オリエンテーションをとおして、1年次早期より「学習→授業→復習」という学習サイクルを徹底させる。部活動だけではなく学業に対する高校生活の目的意識を確立させる。具体的な方策として、課題や小テストなどを授業と連動させるとともに、スタディーサポートの結果を分析して効率の良い学習法を確立させることなどが考えられる。また、課題は生徒の負担を正確に把握した上で適量を与えるとともに、質的に工夫された内容になるようにする。
	保護者	70% ➡ 7%		
	教職員	46% ➡ 4%		
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒	86% ➡ 5%	進学先の学業に対応できる学力について、肯定的な回答は生徒86%、保護者69%、教員64%と前年度を上回っているものの、保護者と教職員の認識は依然として低い。生徒の学力差を正確に把握し、成績上位層に対して高度な学習内容を与えることで授業における全体的なレベルが上がっている一方、スタディーサポートなどにおいて学習成果が上がっていないことも要因として考えられる。	昨年度に引き続き、授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせることで学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容に積極的に取り組ませる。1年次からの探究的な学習活動と進路学習の実践に取り組む。
	保護者	69% ➡ 5%		
	教職員	64% ↑ 12%		
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒	87% ➡ 5%	3年間を見通しながらも、年度ごとに状況や年次の色をつけながら指導しているが、共通理解が得られていないかもしれない。	今一度、目標設定とその達成に向けた進路指導のあり方について検討していき、情報発信も含め、広く共有できるように心がけたい。
	保護者	76% ➡ 3%		
	教職員	75% ➡ 5%		
⑰ 「総合的な学習の時間」における進路指導が充実している。	生徒	86% ➡ 3%	3年次の総合的な学習の時間では進路希望別に分かれ、進路指導を中心として行われているが、その点が理解されていないと思われる。1～2年次では総合的な学習の時間から総合的な探究の時間に名称が変更となり、主旨も異なっている。(総合的な探究の時間=進路指導ではない。)	総合的な学習の時間から総合的な探究の時間に名称が変更となり、主旨も異なっている。教員側に総合的な探究の時間について、改めて内容の理解を深め、取り組み方について研修会の設定が人用であるとされる。総合的な探究の時間として1～3年次まで一貫した再設計、充実が必要である。その際、教員側に総合的な探究の時間について、改めて内容の理解を深め、取り組み方について研修会の設定が必要であると考えられる。
	保護者	74% ➡ 3%		
	教職員	68% ↓ -9%		
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒	80% ➡ 2%	進路多様校である利府高校にとって個に応じた指導が行われていると感じているが、1・2年次では全体指導が中心なので、その点で保護者の理解が低いのもかもしれない。	1・2年次では全体的な指導が中心にはなるが、三者面談だけでなく、二者面談などの進路カウンセリングを通して、各生徒の進路希望に合わせた声かけは引き続き行っていきたい。
	保護者	73% ➡ 5%		
	教職員	80% ➡ 0%		
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒	86% ↑ 11%	生徒86%、保護者95%、教職員82%という結果であった。生徒の肯定割合が昨年度より11%アップしたのは、新しい施設や設備が整ったことも関係しているのではないかと分析する。	今年度は、コロナの対策費も含めて清掃用具や消毒関連の用品もそろえることができた。教職員のあまりできていないという割合が17.9%であるので、引き続き普段の清掃活動や大掃除の徹底をしていきたい。
	保護者	95% ↑ 13%		
	教職員	82% ➡ 2%		
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒	75% ➡ 8%	良好と捉えている割合が昨年度と比べ、生徒で8%、保護者で10%ほど向上している。今年度から図書館に設置されているパソコンが増設され、生徒たちにとって利便性が増したためと考える。	今後とも生徒・教職員の要望を聞きながら蔵書の充実にも努めて威力ある図書館づくりを推進する。また、図書館だよりの発行等を通して、利用促進に向けた情報発信に継続して取り組んでいく。
	保護者	73% ↑ 10%		
	教職員	86% ➡ 1%		
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒	84% ➡ 6%	生徒84%、保護者85%、教職員91%とほぼ肯定的に捉えている。生徒の心身の健康に関しては、先生方の協力の結果でもある。	生徒の委員会活動における広報活動や衛生管理は引き続き実施していきたい。今年度は、健康診断時期が遅かったため、個々の保健指導時間がもう少しほしいところであった。引き続き個々の保健指導や相談活動を丁寧に行ってしていきたい。
	保護者	85% ➡ 6%		
	教職員	91% ↓ -4%		
㉒ P T A や同窓会活動の充実を努めている。	生徒	— —	肯定的な回答の割合は、保護者81%、教職員92%になっている。P T A 活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出来ていない」「出来ていない」と評価する保護者が約19%になっている。P T A 行事への関心が低く、参加者が少ないことやP T A 行事が周知されていないことなどが原因ではないかと分析する。	P T A 行事への参加案内や活動報告を継続していく。今年度は、コロナの影響によりP T A 行事が環境整備活動のみとなったが、例年以上に参加者が激減したため、今後参加者が増加するように広報活動を継続していく。
	保護者	81% ➡ 4%		
	教職員	93% ➡ 0%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大體出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習(オープンキャンパス参加)をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒	92% ➡ 7%	例年だと夏休みにグループごとにオープンキャンパスに参加しており、保護者からも目に見える形で行われていたが、今年度は新型コロナウイルスの影響でオープンキャンパス自体が取りやめになったり、オンライン実施や3年生のみ対象となったために生徒個人で資料を取り寄せてレポートにまとめるだけだったり、各個人でオンラインで参加する形態となった。個人の活動となったため生徒評価は上昇したが保護者からは見えにくい形となったため評価が下がったと思われる。	次年度はコロナウイルスが落ち着いてオープンキャンパスも通常通り行われていれば良いが、まだ見通しは厳しいと思われる。生徒の自主的参加に頼るだけでなく、学校側でもオンラインの説明会を業者や大学等と連携して開催し、上級学校の学びに触れさせる機会を設ける必要があると思われる。
	保護者	67% ↓ -12%		
② 継続的に週末課題や教科ごとの課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒	89% ➡ 6%	生徒・保護者ともに多少評価に変動があったが概ね例年並みである。コロナウイルスの影響で課題が多かったために生徒評価は上昇傾向が見られたものと思われる。保護者の評価が下がったのは、生徒の在宅時間が例年よりも増え、在宅時間に対して学習に取り組んでいる時間の割合が相対的に下がっているためではないかと思われる。	国数英を中心に週末課題は例年しっかりと割り当てて取り組んでいるが、その取り組み内容を保護者にも見える形にする必要があるのかもしれない。進路目標達成に向けてどのような取り組みが組織的・計画的に行われているのかをPTA総会や進路便りなどで示していくなどしていきたい。
	保護者	67% ↓ -4%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大體出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 一日総合大学をとおして、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒	95% ➡ 8%	生徒の94.6%が肯定的な意見であり、昨年度より8%増加している。実際に大学の授業を体験し、有意義に感じている生徒が多い結果であると考えられる。保護者は84.4%と6%増加している。これは、1年次から行われている進路講演会等の実施による進路に対する意識付けの成果と考えられる。	有意義な進路行事として定着しており、個々の進路選択について大いに役立っている。今後は、他の進路行事との相乗効果を高めることで、更なる進路意識の高揚が期待される。
	保護者	76% ➡ 6%		
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に実施されている。	生徒	93% ➡ 5%	生徒の93.0%、保護者の84.4%が肯定的な意見であり、いずれも昨年度より5%程度増加している。概ね週末課題に取り組むことが習慣化されているが、ほとんどの生徒は自ら計画した自学自習までには至っていないと思われる。	週末課題の提出状況は概ね良好であるものの、一部では定着がしていない生徒も見られる。個々の進路目標の実現に向けた学習習慣の定着が今後の課題である。
	保護者	85% ➡ 7%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大體出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣呼びかけしている。	生徒	79% ➡ 4%	生徒の78.7%、保護者の76.3%が肯定的な意見であった。昨年度と比べるべく干ではあるが生徒・保護者共に肯定的な意見が増加した。継続的に課外講習を実施し、進路目標の実現に向けた取り組みを啓発してきたことが、肯定的な回答の増加に繋がっていると思われる。	生徒一人ひとりの進路目標の実現には、課外講習の期間を拡充することなどが改善策として考えられるが、年間を通して計画的に課外講習を実施することが重要である。多様な進路選択が求められる本校の実情を踏まえれば、講習の内容の充実とともに、添削指導を行うなどの個別指導の拡充も改善策として考えられる。
	保護者	76% ➡ 1%		
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒	84% ➡ 1%	生徒の83.7%、保護者の79.3%が肯定的な意見であり、肯定的な意見の割合は生徒・保護者共に昨年度とほぼ同じである。昨年度と同様に、「総合的な学習の時間」を活用して進路希望別に「進路研究」を実施していることが、肯定的な回答に繋がっていると思われる。	「総合的な学習の時間」を活用しながら、進路希望に応じた指導を実施してきた。臨時休校による授業日数の削減や、大学入試制度改革など計画が立てづらい状況の中、臨機応変に対応せざるを得ない場面も多かった。次年度に向けて、進路別のガイダンスや学習会などをより計画的に進めるとともに、生徒の希望進路の変更に柔軟に対応できる体制作りが必要である。
	保護者	79% ↓ -1%		